



## なかよし活動

学校長 中山 光恵

6月

「みんなの笑顔が見られてよかったです。」28日、雨で1週間延期になったマリIFESTAを実施し、閉会式での6年生代表児童の言葉です。昨年は、海の公園が立ち入り禁止でしたので、マリIFESTAを行うことができませんでした。今年度は1・6年、2・4年、3・5年のペア学年ごと、3回に分けて実施しました。ご参観くださった保護者の皆様、ありがとうございました。

本校では、学年・学級を解体した異学年交流グループ(なかよしグループ)で、年間を通して継続活動しています。これが「なかよし活動」です。例年ですと、一緒に遊んだり(なかよし遊び)、給食を食べたり(なかよし給食)していますが、昨年度と今年度は感染症予防を考慮して、できることを工夫して行っています。本来は、全校で海の公園に行って潮干狩りをし、なかよし遊びや海岸清掃をする「マリIFESTA」も、今年度は密を避けてペア活動で実施しました。

異学年交流(異年齢交流)は、子どもの成長には欠かせないものです。私が小学生の頃は、学校では同じ学年の友達と遊び、家に帰ってからは近所の、それこそいろいろな年齢の友達と遊び、その中で学んだことがたくさんありました。小さい頃は大きい子たちに守られて、手助けされながら遊びを覚え、仲間のルールを学びました。大きいお兄ちゃんやお姉ちゃんたちって「すごいなあ」と、大きくなることにあこがれたものです。学年が上がると、自然に自分がしてもらったことを年下の子たちにすることができるようになり、「すごいね」とか「ありがとう」と言われることで自信をつけていきました。今の時代は、異学年の子どもと一緒に遊んで遊ぶ、そんな社会性を育てる仕組がなくなりつつあるように思えます。それに代わるものが「なかよし活動」です。

1・6年生よりも10日ほど早くマリIFESTAができた5年生の振り返りカードには、次のように書かれていました。

- 3年生をリードするのは初めてだから慣れてなくて大変だったけれど、みんなが楽しんでくれたのでよかったです。
- なかよく遊んだり、みんなで笑ったりしたから、より3年生と仲が深まったのではないかと思います。
- みんなでなかよく楽しく気持ちよく終わることができました。ゲームでは協力してみんな笑顔になることができてよかったうれしかったです。

上学年でも、リーダーの経験があまりなかったり、苦手だったりする子もいますが、なかよし活動では、上学年はみんなリーダーです。なかよし活動には、下学年のうちから上級生の動きを見て、多様な関りを学ぶ仕組があります。上学年になったらそれまでの経験に基づいて自分の役割を自覚し、主体的になかよし活動を企画し、グループをリードすることで、自己有用感を得てほしいと願っています。